

# 研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&amp;FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



## 研修講座 A-6 授業づくり

【講師】 伊賀市教育アドバイザー 木村 清俊先生

6月13日(火)、伊賀市教育アドバイザーの木村清俊先生を講師にお迎えし、「授業づくり」の研修講座を実施しました。5年目までの教職員の方を中心に、26名の教職員が受講し、授業づくりの基礎・基本や教師の心がまえ等について教えていただきました。

初めに「児童生徒理解」が大切であるという話がありました。具体的には、教師の意図したように児童生徒が活動できないのは、教師自身が児童生徒の興味・関心や実態等を理解せずに授業を進めているからではないかということでした。

次に、子どもたちの言語活動を豊かにしていくために「読む・書く・話す」の言語活動を授業の中でできるだけ多く取り入れることの大切さを学びました。具体的には、「児童生徒には、①課題を読む。②課題をノートに書く。③わかりにくいこと・はっきりさせたいことを表現させる。」「指導者は、表現したことをそのまま板書する。」など基本的なことを継続して指導することの大切さを改めて確認することができました。



また、指導者は、自分の欲しい発言だけ取り上げがちになるが、それ以外の発言にこそ大きな価値があり、学びのもとになることが多い。だから、児童生徒一人ひとりに発言する機会を保障し、それを基にして教師が対話を生み出すことが重要であると学びました。

最後に指導者の話し方・言葉の使い方について話がありました。教師自身が「やばい」などの短い言葉をつかってしまうなど、不適切な言葉がけになっていないかなど、自身が発言している言葉を振り返ることの大切さについて

て問いかけていただき、一人ひとりが自分を見直す時間となりました。

### アンケートより 【一部抜粋】

- ・木村先生が話されていた「今日のこの1時間で何を分らせたかったのか。」つまり、まとめにいくためのめあてを逆算的に考えて、授業構想をすることを実践していきたいです。また、管理型(教え込み)になってしまふ自分のくせを毎度見直し、どの教科でも言語活動を行い、自分が手本となり、正しい言葉を根気強く使いながら、子どもたちが主体的、対話的に学べるよう模索していきます。(小)
- ・授業中の生徒への言葉がけを振り返って「学習するのは児童・生徒」ということが抜けている言葉の使い方があることを自覚しました。また、自分が授業を進めやすい発言をしてくれる生徒の発言ばかりに注目しがちで、他の生徒の話す・伝える力、書く力を伸ばす機会をうばってしまっていたと反省しました。(中)
- ・授業の流れについて、伝える力を伸ばすための説明を求める学習、子どもの発言のとおり板書することなど多くの点から自分の授業を省みることができました。何のために児童に発言させるのか、よく考えて日々の授業を計画していきたいです。(小)